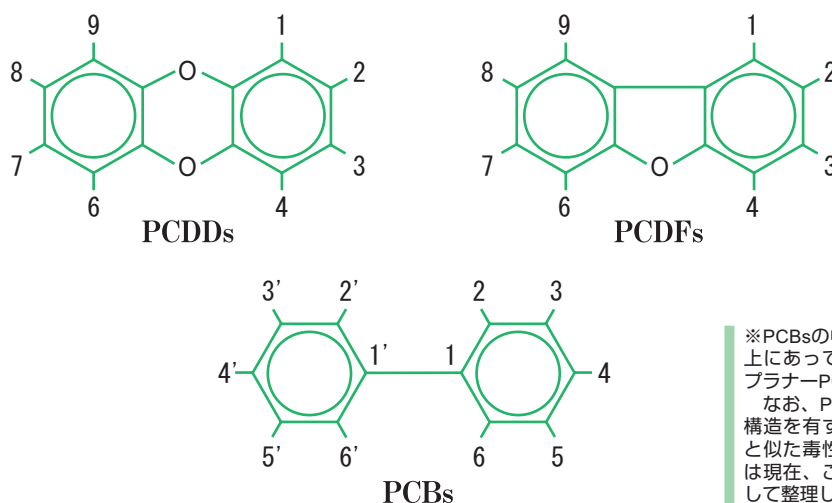


ダイオキシン類とはどんなものでしょうか

PCDD、PCDF及びコプラナーPCBの総称をいいます。

ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン（PCDD 75種類）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF 135種類）、及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB 十数種類）の総称をいいます。

ダイオキシン類は、下の図のように、ベンゼン環（図の六角形の部分）2つが結合するなどしたものに、塩素が付いた構造をしています。図の1～9及び2'～6'の位置には塩素又は水素が付いていますが、塩素の数や付く位置によって種類が変わります。これらのうち、毒性があるとみなされているのは29種類です。



※PCBsの中で2つのベンゼン環が同一平面上にあって扁平な構造を有するものを「コプラナーPCB」といいます。

なお、PCBsの中には、同一平面上にない構造を有するものについてもダイオキシンと似た毒性を有するものがあり、我が国では現在、これらも併せてコプラナーPCBとして整理しています。

毒性の強さは毒性等量「TEQ」で表します。

ダイオキシン類は、種類によって毒性が大きく異なることから、毒性の強さを表すときは、それらの中で最も強い毒性を有する2,3,7,8-四塩化ジベンゾーパラジオキシン（2,3,7,8-TCDD）の量に換算し、毒性等量（TEQ：Toxicity Equivalency Quantity）で表します。環境基準や排出基準は、この換算した量で表されています。

ごみの燃焼過程などから非意図的に生成します。

ダイオキシン類は、研究目的など以外では意図的に作られるものではなく、ごみの燃焼過程など、炭素・酸素・水素・塩素が熱せられるような過程で非意図的に生成します。

発がん性や、動物実験での奇形、甲状腺機能への影響などが報告されています。

WHO（世界保健機関）では、事故などの高濃度の暴露の際の知見から人に対する発がん性があるとしています。

また、実験用動物においては、妊娠中に比較的多量のダイオキシン類を与える実験で、生まれた動物に口蓋裂、水腎症等の先天異常を起こすことが認められています。

その他、甲状腺機能の低下、生殖器官の重量や精子形成の減少、免疫機能の低下を引き起こすことが動物実験で報告されています。